

広島市植物公園 見どころ案内

2018年9月15日
通巻第386号

9/8 (土) ~9/23 (日) の毎週末 夜間開園

センニンソウ (キンポウゲ科)
つる性で秋の初めに小さな白い花がたくさん咲きます。園芸植物で人気のクレマチスの仲間です。

フヨウ (アオイ科)
熱帯花木としておなじみのハイビスカスと同じ仲間です。白花のほか、ピンク、八重咲きのものもあります。花は朝咲いて、夕方には萎む1日花です。

展示会のご案内

- ◇ 展示温室 (9/8~9/27)
- 薬用植物展
- ◇ 展示資料館
- 植物友の会作品展 (~9/16)
- 特別企画展「バオバブ展」(9/22~)

ポポー (実) (バンレイシ科)
北アメリカ原産の果樹。大きな実がついています。熟すと自然に落ちて、甘く強い香りを放ち食べられます。

ハブソウ (マメ科)
お茶として有名ですが、現在、市販の多くは、同じ仲間のエビスグサが利用されることが多いようです。

オオモクゲンジ (ムクロジ科)
中国雲南省原産の落葉高木。枝先の円錐花序に無数の小花を咲かせています。下からでは気づきにくい位置に植栽していますが、展望塔の2~3階から間近にご覧いただけます。

オジギソウ (マメ科)
南アメリカ原産で、日本へは江戸時代後期にオランダ船によって持ち込まれたと言われています。刺激を与えると葉を閉じて、葉柄を垂れさせる独特の運動を行います。夜にも同じように葉を閉じます。

ハウキグサ (ヒユ科)
緑色のボールのようですが、秋が深まるにつれて赤く紅葉します。和名のハウキグサは、昔この茎を乾燥させてほうきを作ったことにちなみます。別名ハウキギ、コキアとも言います。

ガガブタ (ミツガシワ科)
日本では本州以西に分布し、あまり深くない止水域に生息します。工事や水質汚濁などで減少傾向にあり、花卉の縁に糸状の毛が生えたような花をつけます。

ハイビスカス・アーノッティアヌス (アオイ科)
ハワイ・オアフ島原産の常緑低木で、野生のハイビスカス(原種)です。白く大きな花に、赤いしべが印象的です。

ゴレンシ (カタバミ科)
東南アジア原産で、果樹として栽培されています。現在、ピンクの花と若い緑の果実の両方が見られます。果実を輪切りにすると星形になるのでスターフルーツとも呼ばれています。

熱帯
スイレン
温室
休館中

